

2014/7/21 山陰中央新報
島根原発稼働反対
県内外3000人集会

松江

島根原発の稼働反対を訴え、行進する参加者。松江市内



中国電力島根原発（松江市鹿島町片匂）の稼働反対を訴える「さよなら島根原発！大集会」が20日、松江

市学園南一丁目のくにびきメッセであった。県内外から3千人余りが参加し、中国や国に原発稼働を断念させることを目指す集会宣言を採択した。

島根県内の反原発団体などでつくる実行委員会が企画。九州電力川内原発（鹿児島県薩摩川内市）の再稼働が現実味を帯びる中、中国地方のほか、四国地方の反原発団体も参加した。

呼び掛け人を代表して北川泉島根大元学長が「30年以内には47万人が住む島根原発が稼働したら、どうなるのか。少なくとも子や孫が危険を感じずに住める地域社会にしていきたい」と述べ、原発稼働阻止に向け連帯を呼び掛けた。

また、全国で「さよなら原発1000万人署名」活動をしているルポライター鎌田慧氏は「原子力規制委員会は、規制基準に適合しても『安全』とは言えないとし、政府はそれを安全だと言って誰も責任を担おうとしない。原発を止めることが未来に対するわたしたちの責任だ」と訴えた。

集会後は「原発いらない」などとシュプレヒコールを上げながら市の中心部を練り歩き、同市母衣町の中電島根支社前では、同社の担当者に集会宣言を手渡した。